





●着工前 12月11日撮影



●運搬レール布設完了 5月28日撮影

石狩川流域下水道空知川第1水管橋交付金工事



●作業ヤード完了 2月7日撮影



●吊足場組立 2月19日撮影



●除雪状況 2月19日撮影



●門型クレーン組立 3月19日撮影



●吊足場完了 3月25日撮影



●運搬レール布設 5月22日撮影

● 施工場所：滝川市ほか

● 発注者：空知総合振興局 札幌建設管理部

● 施工業者：萩原建設工業株式会社

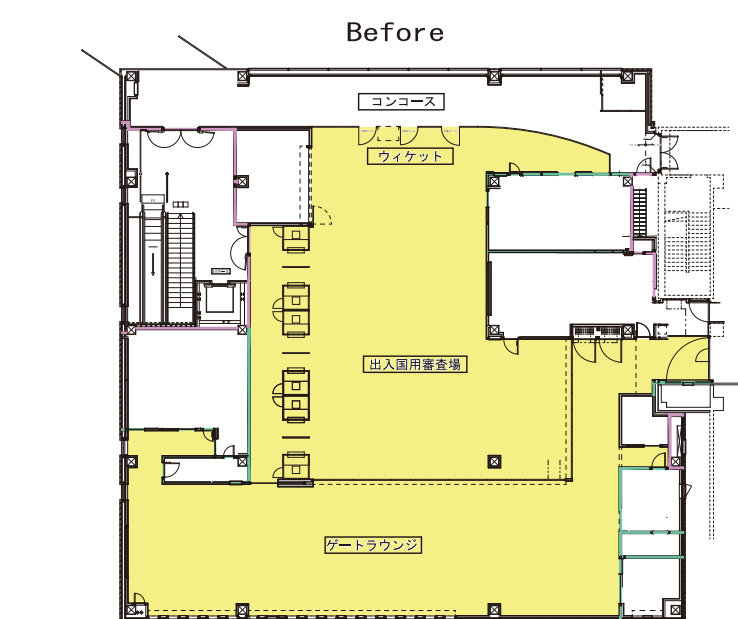
● 施工期間：令和6年12月5日～令和7年9月30日

● 進捗率：57.1% (5月末現在)

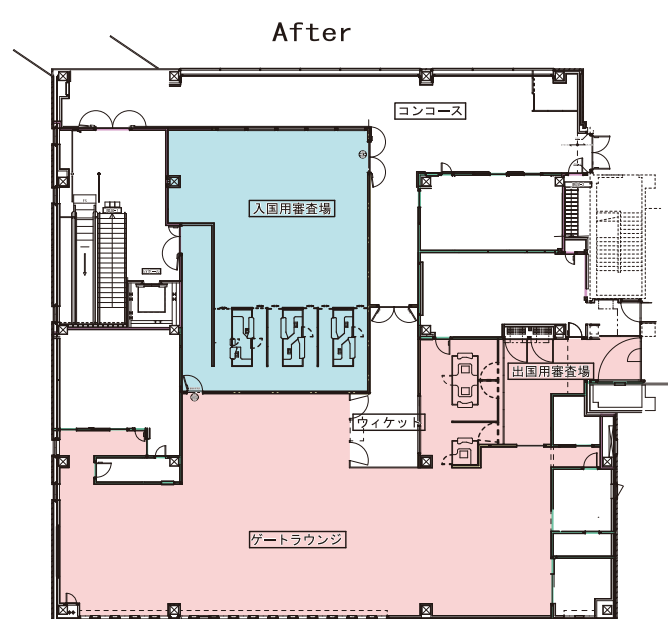
土木

空知川第1水管橋は、石狩川流域下水道中部1号幹線の水管橋であり、昭和54年(1979年)の竣工から45年が経過しています。既設管はφ1,200mm×1条で構成されており、老朽化が著しいため、その更新を目的とした工事です。本工事の主な内容は、橋梁添架管L=65.8m(本管FRPφ600、外装管STK400φ800)、金具受架台設置N=72基、運搬レール布設L=639m、仮設工1式となります。1月末の施工開始以降、作業ヤード造成、吊足場設置、アンカーボルト設置、運搬レール布設、門型クレーン組立と順に進捗し、現在は受架台の設置を行っています。今後は添架管の布設作業へと移りますが、河川敷地内での作業となるため、台風の時期に入ることも考慮し、気象情報を常に確認しながらリアルタイムに状況を判断し、安全の確保に努めてまいります。関係者全員が笑顔で無事に工事を完了できるよう、協力業者・職員・会社一丸となって施工を進めてまいります。

現場代理人・監理技術者：林 博樹／担当技術者：勝山 禎紀、藁谷 璃空



● 平面図Before→After



帯広空港国際線ターミナルビル出入国動線分離工事



●ゲートラウンジ



●出国審査場



●入国審査場



●コンコース

● 施工場所：帯広市泉町西9線中8番地41

● 発注者：北海道エアポート株式会社 帯広空港事業所

● 設計監理：萩原建設工業株式会社

● 施工業者：萩原建設工業株式会社

● 施工期間：【動線分離解体工事】令和7年4月15日～令和7年4月30日【動線分離工事】令和7年5月14日～令和7年5月20日 ● 進捗率：100%



本工事は、とち帯広空港様の国際線2階ターミナルビルにおける改修工事です。韓国(清州)便の就航開始に合わせ、これまでワンフロアで運用されていた工事内容は、国際線2階ターミナルビルに新たに間仕切りを設け、入国審査場と出国審査場の動線を分離し、待機時間の短縮を図るものです。今後は、韓国(清州)との間で週3回の到着・出発便が運航される予定です。今回の工事は、お客様がご利用中の施設内での施工となるため、搬入・搬出の時間制限や動線への配慮を徹底しながら進めてまいりました。施工期間中は、協力業者様およびとち帯広空港の関係者様のご理解とご協力を賜り、無事に竣工を迎えることができました。皆様に心より感謝申し上げます。

現場代理人：前田 涼平／担当技術者：早川 晃大

建築

海外プロジェクト第2弾! タイ王国での大規模牧場建設プロジェクトが始動!



萩原建設工業の“海外チャレンジ”第2弾がスタート!

昨年のカンボジア・サッカースタジアム建設に続いて、今回はタイ・ロブリー県で行われる大規模牧場建設プロジェクトに、コンストラクション・マネジメント(CM)として参画します。

本プロジェクトは、農業・畜産・環境・エネルギーの分野で国内外に事業展開する産業機械メーカー「緑産株式会社」が手がけるもので、日本法人が出資するタイでの大規模牧場建設は、今回が初の試みとなります。弊社は十勝で培った畜産施設の建設ノウハウと、カンボジアでのCM経験を活かし、現地施工会社と連携して、プロジェクト全体のマネジメントを担当します。

施設規模は牛舎・事務所など計12棟・延床11,000㎡を予定。搾乳牛360頭(将来的には500頭)を飼育し、育成・搾乳・加工までを一貫して行える大規模牧場を建設予定です。さらに、200haの畑で飼料を自給する、持続可能な循環型酪農を目指します。

また、「先進技術で育む、豊かな未来の乳製品。」というコンセプトのもと、暑熱対策など現地酪農が抱える様々な課題に挑む“チャレンジ牧場”として、実証モデルの役割も果たしています。

これからの弊社の海外建設プロジェクトにも、どうぞご期待ください!

5月、帯広工業高校にて、建設業のリアルを伝える 講話や意見交換会が複数回開催されました

5月7日に帯広工業高校にて開催された「学科別卒業生講話」で、弊社に入社して2年目となる若手社員2名が登壇しました。土木・建築それぞれの現場で活躍する先輩として、高校卒業後の1年間で経験したことや、「高校生のうちにやっておけばよかったこと」などを、在校生に向けて率直に語りました。

また、別日には建設業・設計コンサルタント・発注機関の三者が集う「建設業三者説明会」も開催され、建設業からは弊社を含む約7社が参加。3年生からの質問に対し、各社がそれぞれの視点で回答し、業界の魅力や仕事の特徴を伝えました。

さらに、建築科3年生を対象とした「意見交換会」では、生徒たちが“施工管理”と“設計”のグループに分かれ、弊社社員と対話を実施。工業高校出身の身近な先輩ということもあり、「働き方のリアル」「入社後のギャップ」「日々や1年の過ごし方、休みの取り方」など、具体的な質問が次々と飛び出し、終始なごやかな雰囲気の中で会話が弾んでいました。

参加した生徒さんからは「具体的な話が聞けたので、これからの進路がイメージしやすくなった」「昔に比べて業界全体のイメージが柔らかいように感じた」「自分の適性と合わせて職種を考えられそう」などの感想をいただきました。



今月の表紙

撮影:営業部 仁藤 正憲

今月の表紙は、5月21日午後4時23分、とかち帯広空港に着陸して歓迎の放水を受けるエアロKの旅客機第1便の様子です。韓国の格安航空会社(LCC)エアロK航空による、帯広と韓国・清州(チョンジュ)を結ぶ国際定期便が就航いたしました。とかち帯広空港にとっては初の国際定期便であり、10月24日までの間、月・水・金曜に1日1往復運航される予定です。弊社では、この記念すべき就航に向けた建築工事をお手伝いさせていただき、大変光栄に感じております。韓国からお越しの皆様へ、十勝の自然や食、文化の魅力を存分にご堪能いただければ幸いです。

